



特集 2

医療現場を救うのは「情報共有」だ！～多職種連携を支える仕掛けづくり～

職員への情報共有と魅力発信を加速するデジタル活用

～職員向けLINE+職員ポータルサイト～

社会医療法人栄公会 佐野記念病院 法人本部広報企画担当 課長 岸本安生

社会医療法人栄公会佐野記念病院（以下、当院）は大阪府泉佐野市にある、整形外科・脳神経外科をメインとした急性期・回復期リハ病棟を保有する95床のケアミックス病院です。中小規模病院ではありますが、大腿骨近位部骨折に対する手術を年間約300件実施するなど整形外科で年間約2,000件の手術を提供しており、整形外科外傷、人工関節、肩、脊椎、手の外科、脳血管などの分野で専門性の高い医療を提供しています。

今年で創業68年、同グループ内では入所・通所・訪問系サービスなど介護福祉分野で14事業所を運用しております。

職員への情報共有における課題

福祉部門を含めた当グループの職員数は600名近くとなり、組織が大きくなるにつれての課題として、職員数が増えてくると、一人ひとりのスタッフへの情報伝達に苦勞するようになってきました。

「そんな情報は知らなかった」「私の部署はみんな聞いていない」など情報伝達の差があり、平等性に欠けた運用となっていました。

各部署では所属長が部署をまとめていますが、診療や患者、利用者対応などの通常業務も多く、法人本部からお知らせしたい内容が、所属長を通じてではなかなか全職員まで届かないことがありました。

これまでも、全部署の所属長が集まる「部署会議」

や、グループウェア（当院ではサイボウズ）を利用した情報発信、さらに給与明細に同封する「職員向け広報誌栄公レター」など、いろいろな方法で情報をお伝えしてきましたが、常勤からパートまで、さまざまな雇用形態がある中で全員に同じように情報共有するのが大変であると感じていました。

コーポレートガバナンスを考える中で、情報共有は極めて重要であり、組織がまとまっているかどうか、という点は法人がどの方向を向いて動くかどうかを職員の皆さんにしっかりと伝える必要があります。

それだけでなく、この法人で働くメリットを感じてもらうためにも、よりダイレクトに、よりスピーディーに、より丁寧に詳細に伝えられることが求められると考えました。そこで今回は、主に職員に有益な情報や福利厚生についての発信にフォーカスした取り組みを行いました。

情報共有ツール①「LINE 公式アカウント」

周知方法として、まず初めに何を活用すべきかを考えたところ、日本で最も利用されているメッセージアプリである“LINE”を活用しようと考えました。

LINEは全国で8割以上の人に利用されているメッセージアプリであり、テキストや画像などを共有することができます。

LINEが運営するサービスの中で、今回「LINE公式アカウント」というサービスを活用しました。LINE公式アカウントは、通常は店舗や企業がエンドユーザー

事例1 職員への情報共有と魅力発信を加速するデジタル活用

(お客さんや顧客) 向けに販売促進を目的に利用されるサービスですが、これを転用し法人本部と職員での共有ツールとして導入しました。

およそ4年前に利用開始し、『栄公会スタッフグループ職員向けアカウント』を立ち上げ、2025年現在、職員の8～9割近くが登録しています。職員の私用のスマホにインストールされているプライベートのLINEへ友

だち登録してもらった形であるため、登録は職員それぞれが任意としていきます(図表1)。

保養所コテージの予約窓口や抽選会の案内、イベントなどの福利厚生情報の発信や、サークル活動の紹介、法人内の制度のご案内、研修のご案内など、職員の皆さんにメリッ

トがあるものを多く発信してきました(図表2、3:54頁)。

LINE 公式アカウントの導入の結果、低コストでタイムリーに情報発信ができるようになりました。

(参考) コスト面…月15,000円で30,000通を配信可能(500名の登録であれば、月30通配信可)。

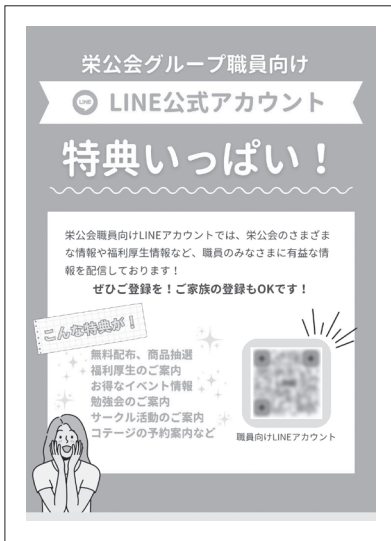
情報共有ツール②「職員向けポータルサイト」

当院のWebサイトを管理してもらっている制作会社に依頼し、LINE 公式アカウントの導入と同時期に「職員向けポータルサイト」を制作しました(図表4:54頁)。

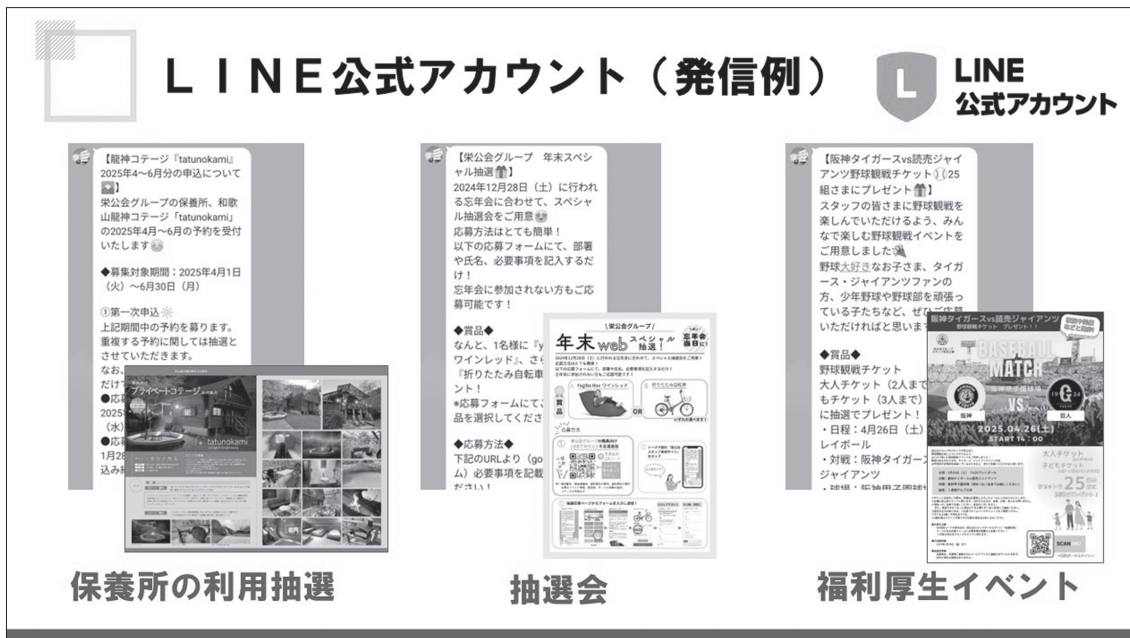
LINE ではタイムライン上に情報が流れていくため、過去の投稿が後ろに流れて行ってしまいます。ポータルサイトではこれまでにLINE 等で配信してきた情報や、院内研修動画、サークルの活動履歴など、自由なレイアウトでさまざまな情報を詳細に掲載することができます。

ポータルサイトの入り口は、LINE『栄公会スタッフグループ職員向けアカウント』のトーク画面の下部にボタンをつくっています。なお、トップページ以外は編集・更新が可能(Wordpress を利用)なため、追加コストなく情報を増やすことが可能です。

図表1 LINE 公式アカウント友だち登録チラシ



図表2 LINE 公式アカウント発信内容①

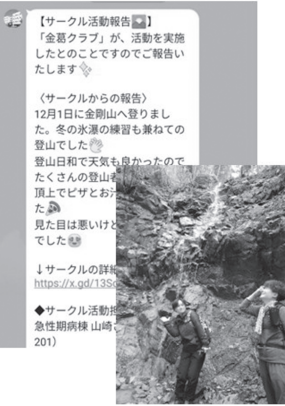


図表3 LINE 公式アカウント発信内容②

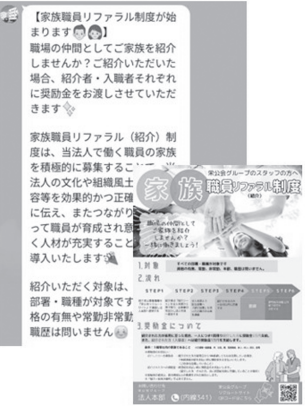
LINE 公式アカウント

LINE 公式アカウント（発信例）

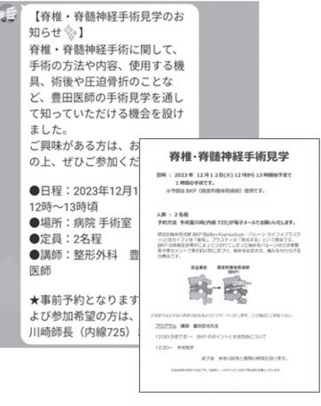
LINE 公式アカウント



サークル活動



制度のご案内



研修のお知らせ

図表4 職員向けポータルサイト

LINE 公式アカウント

職員ポータルサイト

LINE 公式アカウント







〔掲載内容（図表5）〕

- ・月1回配信している職員向け情報ページ「栄公レター」
- ・サークル活動履歴（約20サークル）
- ・過去の研修動画（YouTube リンク設置）
- ・福利厚生情報（保養所コテージ、抽選会ページ、シミ

取りレーザー治療）

- ・職員の相談窓口
- ・業務改善提案コンテスト「カイゼン大賞」
- など

（参考）ポータルサイト制作費…イニシャルコスト：約10万円（更新があるページは Wordpress にて編集できる仕様となっているため、ランニング費用はほぼなし）

図表5 ポータルサイト掲載内容



活用状況

運用上のメリットとして、デジタルツールのほうが直接本人のデバイス（今回ではLINE）へ届けることができ、伝えたい情報をすぐ発信することができます。例えば、災害時・非常時など職員への緊急連絡にも利用できると考えています。

もちろん紙媒体と同じように、データとして画像を送ることができる点では詳細まで伝えられ、トークをさかのぼれば過去の記事もすぐに見ることができます。

なお、コストについても紙運用と比較し、印刷費や発信回数などを考えるとWeb運用コストの方が、費用対効果が高い結果となりました。

現在では、2日に1回程度の頻度で配信し、職員の中では「職員にとって有益な情報がLINEで流れてくる」と法人内ではおなじみのツールとなりました。ほとんどの方がスマートフォンを持つ現在、デジタルでの発信については年齢にかかわらず、職員の抵抗がなくなっている印象です。

今後の展望

これまで、情報を知っている人からの口頭伝達であったり、職場のPC端末の利用状況の差で情報を得ら

れる頻度が異なっていたりしたため、法人本部からの情報を知らなかったという声も多かったのですが、直接スタッフ“個人”へ情報を伝える方法ができたため、確実に職員本人へ伝えられるツールとして活用できていると考えています。

さらに、職員限定のメリットを回数多く打ち出すことで、栄公会グループの職員であるメリットを感じていただきたいと思います。最終的には離職率を下げる一つのツールとして、より帰属意識を高めてもらい「ここで働きたい、働き続けたい」と思ってもらえるよう、発信内容の質を上げていきたいと考えています。M



病院概要

病院名：社会医療法人栄公会 佐野記念病院
所在地：大阪府泉佐野市中町2-4-28
電話：072-464-2111
病床数：95床